

平成 28 年度第 2 回愛媛県出資法人経営評価専門委員会 議事概要

日 時	平成 28 年 1 月 14 日 (月) 13:30~15:30
場 所	環境保健福祉委員会室
出 席 者	
〔委 員〕	丸木委員長、岡本委員、弘末委員、山本委員 (4 名)
〔事 務 局〕	行革分権課長、同課主幹ほか

《 開 会 》

○ 議 事

平成 28 年度県出資法人経営評価の 2 次評価 (案) について

【丸木委員長】

それでは、これより議事に入らせていただきます。

まず、平成 28 年度県出資法人経営評価の 2 次評価 (案) について審議を行います。

この 2 次評価 (案) につきましては、各法人が行いました 1 次評価結果の確認などを通じて、皆様方と協議してまいりました内容を踏まえ、とりまとめたものでございます。説明は事務局にお願いし、委員の皆様を確認いただきたいと思っております。

それでは、まず、先日ヒアリング及び現地調査を行った 3 法人の 2 次評価 (案) につきまして、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

まず、先日ヒアリング等を行った (公財) 愛媛県文化振興財団、(公財) えひめ女性財団、(公財) 松山観光コンベンション協会の 2 次評価 (案) についてご説明いたします。

— 事務局説明 —

【丸木委員長】

ありがとうございました。

ただいまの事務局の説明につきまして、各委員からお気づきの点がありましたら、ご発言をお願いします。

【弘末委員】

(公財)愛媛県文化振興財団の流動資産についての意見は、貸借対照表の「棚卸刊行物」の評価方法に関する事か、損益計算書における「図書販売収益」に対応する「図書製作費」が大きいことから再検討すべきということか再確認したい。

【事務局】

現在、貸借対照表の「棚卸刊行物」(22,134千円)の評価については、製作にかかった原価を基にしているが、事務局において確認したところ、売価(機関誌「文化愛媛」定価500円)に改める方向で検討が進められているとのことである。

なお、27年度の損益計算書では、「図書製作費」として4,128千円が計上されているが、発行した定期刊行物の大半が販売ではなく、公立図書館や学校等に無償配布しているため、「図書販売収益」(825千円)と比較すると費用が大きくなっている。また、一冊当たりに換算した場合でも、販売価格を製作経費が上回っている状態。

【岡本委員】

そもそも、定期刊行物の発行に必要な経費が販売価格を上回っており、製作経費には原稿謝金や取材経費のような性質のものも含まれている。これらは発行年度の費用であるのに、棚卸資産に含めて評価し、資産として複数年度にわたってストックしていることが原因ではないか。

【丸木委員】

単年度の費用として計上する性質のものかどうかについて検討していただくこととしたい。

【岡本委員】

また、定期刊行物だけではなく、書籍についても著者への出版助成のような性質を帯びた経費を含めた原価に基づいて棚卸資産として計上していると考えられ、そのため流動資産が大きく見えているのかもしれない。

【丸木委員】

在庫となっているものの性質を調査したうえで、売却可能価格を基にした処理が必要である。

【岡本委員】

今後、棚卸資産の評価方法を変更するとなると、一時的に大きく損失を計上することとなるが、適切な処理をとってもらいたい。

【山本委員】

ひめぎんホールの照明器具や絨毯等の施設修繕費に関しては、修理に必要な部品の特殊性や設計者の意匠権等の関係もあり、ランニングコストが非常に高くなっているため、今後の修繕方針について検討すべきではないか。

【岡本委員】

(公財) えひめ女性財団の役員の常勤化に関しては、かねてから当委員会で指摘してきたことであるが、常勤である財団参事を理事に登用する方向で検討が進んでいるとのことなので、期待したい。

【山本委員】

近年は、SNS等の普及もあり、道後温泉をはじめ宿泊業界においては、既に国内客よりもインバウンドの影響が非常に大きいという実情がある。そういった動きも踏まえて、(公財) 松山観光コンベンション協会においても、台湾等の外国人観光客の誘致にも積極的に取り組んでいるのか。

【岡本委員】

当協会は松山市の事業と密接な関連を有しており、同市が台北市と友好交流協定を締結したことから、台湾観光経済交流事業等を実施している。27年度においては台湾との友好交流の一環として、台北市で松山の神輿披露を行っている。収入の大半を占める松山市補助金の額についても、年度ごとの事業量の増減が影響しているとのこと。

【丸木委員長】

では、ヒアリング対象法人につきましては、ここで一旦審議を終了とします。

続いて、ヒアリング対象法人以外の法人の2次評価(案)につきましては、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

愛媛エフ・エー・ゼット(株)、松山観光港ターミナル(株)、その他法人全般について経営改善状況をご説明いたします。

— 事務局説明 —

【丸木委員長】

事務局から説明がありましたが、各委員からお気づきの点がありましたらご発言をお願いします。

【岡本委員】

愛媛エフ・エー・ゼット（株）の国際貿易センター（アイテムえひめ）の展示場面積稼働率 25.3%について、大都市圏とは比較にならないと思うが、どのように捉えるべきか。

第一に、立地条件が悪いという弱みがあるが、その他コンベンション等の誘致に至らなかった場合の原因等について、(公財)松山観光コンベンション協会等から、適宜フィードバックしてもらおうなど、稼働率向上のために何をすべきか外部から指摘する仕組みをぜひ検討していただきたい。

【山本委員】

駐車料金やビジネスオフィスの賃借料について、料金設定が高すぎるのではないか。例えば、松山市総合コミュニティセンターでは、駐車料金を見直した結果、利用稼働率が上がった。最近では、イベントを企画する企業等も駐車場代が高いと嫌がる傾向が強く、エミフル等の大型ショッピングモールや他施設に移行しているケースもある。郊外という不便な立地であれば、それに見合う形での運営が必要。駐車料金やビジネスオフィスの賃借料については、抜本的に見直すべきではないか。

【丸木委員長】

立地条件等を踏まえ、主催者のニーズも捉えながら、課題を分析していく必要がある。

本日は委員の皆様からご意見をいただき、ありがとうございます。最終的な2次評価への反映等も含めた取扱いについては、委員長一任とさせていただきたいと思いますが、よろしいでしょうか。

【各委員】

(異議なし)

【丸木委員長】

ありがとうございます。

それでは、そのようにさせていただきます。

以上で本日本日予定されている協議事項はすべて終了ですが、全体を通じて何かご意見やご質問等はございませんか。

特にないようでしたら、進行を事務局にお返しします。

【事務局】

ご審議ありがとうございました。

閉会に当たりまして、行革分権課長からごあいさつ申し上げます。

—課長あいさつ—

以上をもちまして、平成 28 年度第 2 回県出資法人経営評価専門委員会を終了させていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

《 閉 会 》